
現世の沙汰も神次第

晦冥孤影 Take5

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現世の沙汰も神次第

【Nコード】

N9451C

【作者名】

晦冥孤影 T a k e 5

【あらすじ】

まさか、そんなことが起こるなんてな。

Prologue

何故、こんなにも早く。

俺を置いて逝ってしまったのだろう。

あの時の言葉は嘘か真か。

ただ神のみぞ知る。

俺が17歳のとき、彼女は俺を差し置いて、そのあまりに短い生涯に突如幕を閉じた。

そして、それから8年の歳月が過ぎようとしていたころ。

俺は、未だに彼女のことを忘れられなくなっていたんだ。

忘れ去ろうとするために必死で勉強し、有名大学に入ったところでその葛藤が消えるわけじゃない。

彼女 幼馴染みで、高校に入ってから付き合い始めた

は、不慮の交通事故によって、その17年の生涯を終えた。

それが俺が高校2年生だった年の、大雪の降る日のことだったって

わけさ。

さっきも言ったとおりだが、国立大を出て、メガバンクに破格の条件で就職。

正直に言おう。俺は今、社会的に見て成功者だと思うね。

これではまるでエゴイステイックなエリートの台詞じゃないか、というのはよく分かる。

現に、言い出した俺もそう思うしな。

俺は永井 ながい ゆつき 裕樹。25歳にして年収は800万つてとこだ。

まあまあ金銭的には恵まれてると思ってる。

でもな。もう8年も経つと言つのに、やっぱり俺はアイツの事が忘れられないみたいだ。

時々ふと思ったりするんだ。

あいつがひょっこり帰って来てくれないかなーとか、手紙の一通でもよこしてくれないかな、とかさ。

でも。そんなことはありえない。そう思ってたさ。

昨日まではな。

P r o l o g u e (後書き)

はい。突発的にはじめたね。

連載とは言っても、短編の集合体になる事請け合いだろうとは思いますが。

いいんじゃないの？SSの書きやすさも大事よ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9451c/>

現世の沙汰も神次第

2011年1月16日08時55分発行